

# ANNUANNU



クマの頭部を表現した土器  
江別市元江別1遺跡(文化庁)



蕨手刀  
青森県八戸市丹後平古墳51号墳(八戸市博物館)

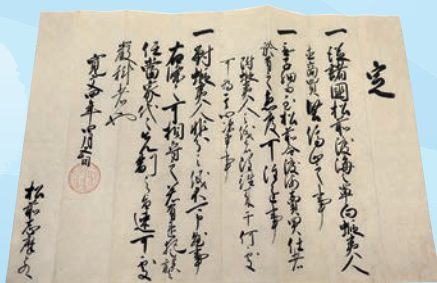


兵庫鎖付き足金物  
余市町大浜中遺跡  
(余市町教育委員会)

## 考古学と歴史学からみる アイヌ史展 —19世紀までの軌跡—



筋兜鉢  
陸別町トラリ1チャシ(證道寺)



徳川家綱朱印状  
(北九州市立自然史・歴史博物館)

基本展示室のこの展示を見て! / 遠星北斗自筆短歌 特別解説 / 見て見て! 園内サイン① / 博物館の教育活動  
ウポポイ開業3周年記念イベント開催報告 / 国立アイヌ民族博物館からのお知らせ / ウポポイってこんなところ⑩



# 考古学と歴史学からみる アイヌ史展 —19世紀までの軌跡—

会期 **2023.9.16(土) - 11.19(日)**

※休館日：月曜日（祝日または休日の場合は翌日以降の平日）  
9/18(月・祝)、9/19(火)、10/9(月・祝)は開館。10/10(火)は休館。

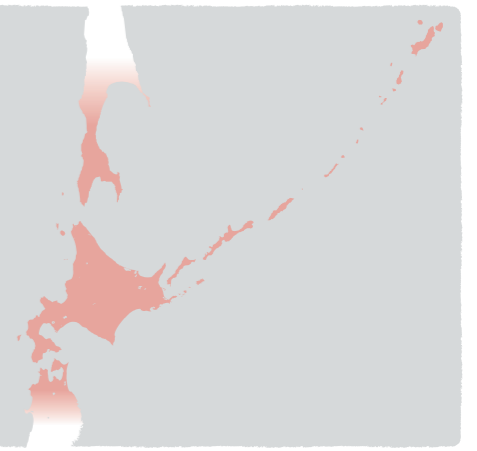
会場 **国立アイヌ民族博物館 2階 特別展示室**

※博物館の入館料は、ウポポイ入場料に含まれます。  
※ウポポイ入場料とは別に特別展示観覧料(300円)が必要です。

【主催】国立アイヌ民族博物館 【後援】公益社団法人北海道アイヌ協会 【協力】秋田市教育委員会、旭川市博物館、芦別市教育委員会、厚真町教育委員会、石狩市教育委員会、岩手県立博物館、恵庭市教育委員会、江別市教育委員会、小樽市総合博物館、上ノ国町教育委員会、北九州市立自然史・歴史博物館、九州国立博物館、釧路市教育委員会、釧路町教育委員会、斜里町教育委員会、釧路市教育委員会、千歳市教育委員会、東京国立博物館、東京大学史料編纂所、南部町教育委員会、根室市教育委員会、函館市教育委員会、八戸市博物館、弘前市教育委員会、深川市教育委員会、北斗市教育委員会、北海道大学附属図書館、北海道伊達市教育委員会、北海道博物館、北海道埋蔵文化財センター、北海道立図書館、北海道立文書館、宮古市教育委員会、余市町教育委員会(五十音順)

## 要旨

アイヌ民族は19世紀まで北海道、樺太、千島、東北部など、日本列島北部とその周辺の自然環境の中で生活を営み、固有の文化を築き上げてきました。周辺文化との接触を重ねながらその特色を際立たせてきたアイヌ文化は、時代とともに変化を繰り返してきました。本展覧会では、考古学と歴史学の研究成果を踏まえたアイヌ史を紹介します。現代にみられる伝統性が形成されたであろう18～19世紀のアイヌ文化を軸に、その成り立ちを概観します。現代のアイヌ民族につながる歴史観をどのように構築していくのか、について考える展覧会にしたいと思います。



### 1章 東と西の伝統、北と南からの交流

**重要文化財**

こつかくせいもりがしら  
**骨角製銃頭**  
北海道伊達市有珠モシリ遺跡(文化庁)

**重要文化財**

クマの頭部を表現した土器  
江別市元江別1遺跡(文化庁)

北海道を舞台とした歴史が、巨視的にみると東と西で文化の様相が異なって進んでいきます。

### 2章 地域を超える交流 — イコロの系譜 —

こつかく  
**クマ形骨偶**  
(函館市教育委員会)

**重要文化財**

こしゅうきょう  
**湖州鏡**  
釧路市材木町5遺跡(釧路市教育委員会)

**重要文化財**

わらびてとう  
**蕨手刀**  
青森県八戸市丹後平古墳51号墳(八戸市博物館)

3～13世紀頃、周辺の文化との交易が高まっています。このような交流が活発化する中で、ガラス玉、刀剣、漆器などが北海道へやってきます。

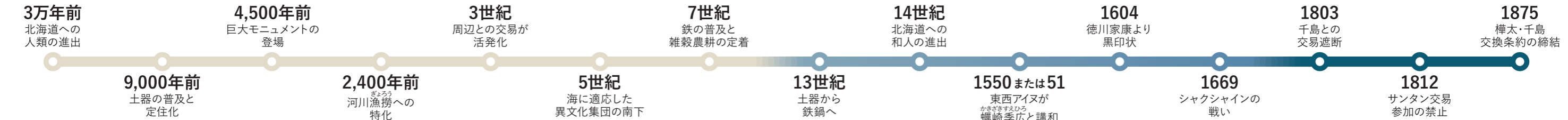
### 3章 アイヌ文化にみられる「13世紀」の画期とはなにか

木製ヤス  
千歳市ユカンボシC15遺跡(北海道埋蔵文化財センター)

銚子  
厚真町ニタップナイ遺跡(厚真町教育委員会)

兵庫鎖付き足金物  
余市町大浜中遺跡(余市町教育委員会)

アイヌ文化にみられるさまざまな文化要素が出現していく13世紀以降の時代について考えてみます。



### 4章 チャシの構築

**初公開**

すじかぶとばち  
**筋兜鉢**  
陸別町トラリ1チャシ(證道寺)

アイヌがつくった砦や柵囲いなどの構築物であるチャシについて紹介します。

### 5章 アイヌ社会に引かれる境界

**北海道初公開**

印がある陶器  
青森県南部町聖寿寺館跡(南部町教育委員会)

**初公開**

徳川家綱朱印状  
(北九州市立自然史・歴史博物館)

**重要文化財**

カラフトナヨロ忠乙名文書  
(北海道大学附属図書館)

14世紀頃から和人の北海道定住が進み、アイヌの地が奪われていきます。その中に和人の地との境界が生まれました。

### 6章 生活の中ではぐくまれたアイヌ文化 — 今に息づく文化の系譜 —

アイヌ盛装図  
(当館)

えぞしまきかん  
**蝦夷島奇観**  
(所蔵：東京国立博物館所蔵 収蔵：九州国立博物館 撮影：落合晴彦)

**重要文化財**

シカの下顎骨に刺さった銃頭  
斜里町クシュンコタン遺跡(斜里町教育委員会)

18～19世紀頃に描かれた絵画を中心にアイヌ文化を概観し、アイヌ史として復元するべき歴史とは何かを考えます。

**展示担当者からのコメント** 北海道の歴史を語る上で欠かせない重要文化財7件が出品されます。ぜひお越しください。

クマを彫刻したスプーン  
北海道伊達市有珠モシリ遺跡(文化庁)

**関連イベント**

- 9/16(土) 開会記念講演会
- 10/7(土) トークイベント
- 当館職員によるギャラリートーク：9/23(土・祝)、10/14(土)、11/3(金・祝)、11/4(土)、11/18(土)

※詳しくは当館ウェブサイトをご確認ください。



# 基本展示室のこの展示を見て!

当館の基本展示の構成や

アイヌ語の取り組みなどが評価され、第7回日本展示学会賞を受賞しました!

受賞を受け、今号では基本展示室の特徴を解説します!

《受賞日:令和5(2023)年6月18日》

## 1 展示の見どころ

当館の展示室は、アイヌ文化の概要を理解してもらうために「aアエキルシ(プラザ)」の展示コーナーを設けています。さらにテーマに合わせて深く知ってもらうために、プラザの中央に「bイタク(ことば)」、その外周に「cイノミ(世界)」・「dウレシバ(くらし)」・

「eウパシクマ(歴史)」・「fネブキ(しごと)」・「gウコアプカシ(交流)」の6つのテーマに関わる展示を設置しています。また、「tイケレウシ(探究展示)」は体験を通じてアイヌ文化に触れることができるコーナーです。それぞれの展示テーマに決められた順路は

なく、プラザから各テーマの展示へと自由に回ることができます。そのほか、天井にはそれぞれのテーマ名と特徴的なグラフィックが描かれた円環状のサインがあり、どこに何のテーマの展示があるのかガイド的な役割を持たせています。

## 2 アイヌ語

当館の第一言語はアイヌ語です。展示室中央ではモニターをいろいろに見立て、いろいろを囲むようにアイヌの物語を聞くことができます。また、プラザ展示のケース側面ではキーワードとなるアイヌ語を紹介しています。そのほか、各所にあるモニターではアイヌ語の仕組みや発音を学べるコンテンツがあり、展示室のさまざまなところでアイヌ語に親しむことができます。

## 3 受賞理由と受賞の様子(一部抜粋)

守られ続けられてきたアイヌ語が公用語となった空間に身を置く体験は、鑑賞者(アイヌ語を母語とする側にも、そうではない側にも)に強い印象を与え続けるのではないだろうか。このような博物館が日本に誕生した意味は大きく、高く評価したい。

<http://www.tenjigaku.com/wp/wp-content/uploads/2023/06/dc61cbbc4192e826fd585f8d0614d0b9.pdf> より一部抜粋。



受賞の様子

# 遠星北斗自筆短歌



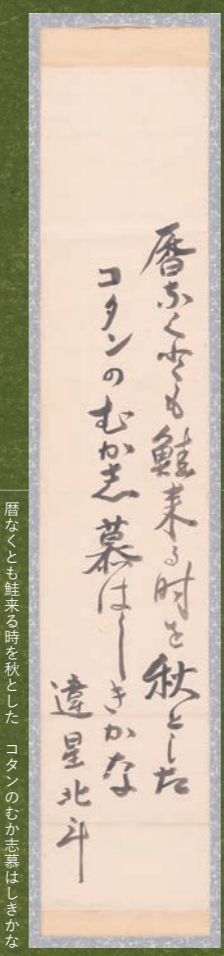
第6回特別展示

「アウタリオピッタ」アイヌ文学の近代—バチラー八重子、遠星北斗、森竹竹市—

において展示された資料に関する特別解説

道に改称して植民地化を進めた。北海道旧土人保護法などの諸規制のもと、短歌こそ人々に心の叫びを届ける最適な手段と認識した北斗の選択であった。

学校教育の場でさえアイヌの原始性を説く教師が少なくなかった時代、短歌に凝縮された北斗の心情が、胸を抉るほどの痛みとして読み手にも伝わってくる。北斗は、アイヌの社会や文化に理解を示す研究者や社会運動家などに、可能な限り対面し、また北海道各地のコタン(集落を訪れ、同族への啓発運動を試みている。



自筆掛軸

秋になると鮭がヨイチの海浜に打ち寄せる波に乗り群れ来る姿を見慣れてきた北斗ではあるが、身をよじって必死に上流を目指す群鮭の壮観には、さすがに心を揺さぶられたことであろう。わたしもサハリン島の浜で間近に目撃した、真水を求めて遡上する生命の連鎖の神々しさがいまでも眼に焼き付いている。

感じることができる。

古田旧蔵のこの短歌は、下の句が少なくとも三度推敲されており、時系列的に見て最終段階のものとみなしたい。なお、どのような理由か、遺稿集となった希望社刊行の『コタン』には掲載されていない。(大塚和義)

北斗は、観光地で見世物にならざるを得ない同族の虐げられたありようなどを、すべからず感性で短歌に凝縮させ、心底の憤懣を吐露した。当時の国家批判を封じ込めた治安維持法による激しい官憲の呪縛をかわすため、短歌という手段で文字にあらわし、同族の奮起を促している。

展示の自筆短歌は、病のために二七歳の若さで亡くなるまで、北斗の恩師であり、病床の枕辺に常に寄り添った古田謙二に、昭和三年、余命を悟った彼が感謝の気持ちを込めて贈ったものと推察する。この書体は、力のこもった筆づかいで、アイヌとしての自負とともに、さわやかな彼の生きざまを

今号より館内サインから園内サインへと拡大し、皆さまへより広くアイヌ語を知っていただくコーナーとなります!

## 見て見て! 園内サイン ① チェトウン スウォプ オマトウン<sup>ロ</sup> ロッカー室

アイヌ語でコインロッカーをどのように表現するのかについては、英語のロッカー(locker)の意味なども確認しながら案を検討していき、「借りて手荷物を保管しておける箱」という使い方や形状に注目して、チェトウン「借りられる」・スウォプ「箱」としました。ちなみにエトウンは、少し借りて後で返すようなものや、使っても減らないものを借りることをいいます。

ロッカー室は、このチェトウン スウォプがある部屋ということで、チェトウンスウォプ「借りられる・箱(コインロッカー)」・オマトウン「〜が〜にある」・トウン「部屋」と表現しています。

(学芸員 矢崎春菜)



ロッカー室のサイン



国立アイヌ民族博物館で行われている教育普及プログラムや、教育普及のツール、教育展示「探究展示 テンパテンパ」などについての話題を取り上げます。前号に続き、博物館の教育活動のために開発したワークシートをご紹介します。

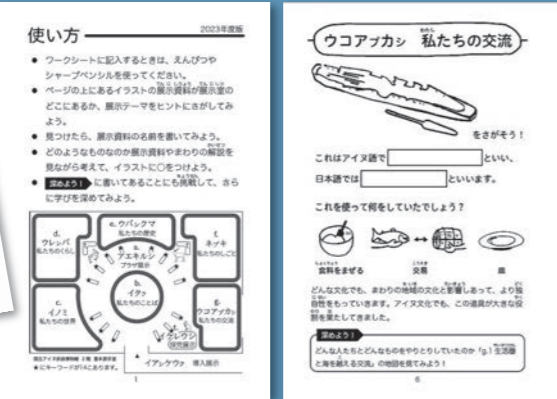
## 基本展示ワークシート

4月29日より、基本展示室の展示資料について学べるワークシートを基本展示室入り口手前のパノラミックロビー（2階）に配架しました。これは基本展示室の6つのテーマを担当する学芸員が、展示資料の中で特に知ってほしいモノを選び、問いにしたものです。このワークシートは、アイヌ語やイラストで描かれた資料などを展示室の中から探すというものです。探し当てた資料名などを記入し、クイズを解いて、その素材や役目などを考えます。さらにその資料に関連する映像等の紹介もありますので、楽しみながらアイヌ文化を学んでいただくと嬉しいです。展示室を隅々まで見な

いと答えが見つからない場合がありますが、どうしても見つからない場合は、職員がヒントを出すのでお声がけください。答えが見つかった後に、職員の専門分野の話聞けるかもしれません。基本展示室を見学する時の注意事項はご存じでしょうか？飲食や動画撮影が禁止されているのとともに、鉛筆（シャープペンシル可）以外の書く物の使用を禁止しています。ワークシートを使うときは、鉛筆かシャープペンシルが必要となりますので、ご持参いただいた上で当館のワークシートをお楽しみください。（学芸主査 北嶋イサイカ）



ワークシートの表紙と内容の一部



パノラミックロビーのワークシートの配架場所と注意事項

## 教育普及活動報告

3月14日～5月14日、第4回テーマ展示「地域から見たアイヌ文化展 アカント ウンコタンー阿寒湖畔のアイヌ文化」の会期中、地域の伝承者の方をゲストにお迎えし、下記の関連イベントを実施しました。阿寒湖アイヌコタンでのこれまでの活動や、現在の取り組みについてお話しいただいたほか、伝承されてきたうたやムックリ等の演奏やそれにまつわるエピソード等も語っていただきました。

各回とも反響が大きく「貴重なお話を直接聞くことができ、今日ウポイに来て本当によかった」「普段当たり前の生活が、大切な文化であることに気付かされた」「阿寒湖アイヌコタンへ行ってみよう」といった声を数多くいただきました。

このほかにも、展示担当がギャラリートークイベントを2回開催しました。（学芸員 長谷仁美）

日付	イベント名	ゲスト
4月1日	阿寒湖アイヌコタンの「今」と「昔」を語る	山本栄子氏 廣野洋氏
4月2日	アイヌ語のおはなしを聞いてみよう!	平良智子氏 山本栄子氏
5月13日・14日	スペシャルトークイベント	阿寒口琴の会



「阿寒湖アイヌコタンの「今」と「昔」を語る」の様子



「スペシャルトークイベント」での活動内容の紹介

# おかげさまで3周年 ウポイ 開業記念イベントを行いました



2023年7月12日に民族共生象徴空間 ウポイは開業3周年を迎えました。新型コロナウイルス感染症が拡大する中での開業となり、さまざまな判約の中での活動ではありましたが、多くの皆さまにご来園いただきました。この間、ご指導、ご協力をいただきました関係する皆さまにも、心より感謝を申し上げます。

ウポイは、アイヌ語をはじめとするアイヌ文化復興、創造の拠点として、また、先住民族の尊厳を尊重し、差別の無い、多様で豊かな文化を持つ、活力ある日本の社会を築くための象徴として、位置付けられています。

今後も、ウポイが地域の伝承活動の発信の場所として、各地の文化伝承活動と連携しながらアイヌ文化の情報発信をしてまいりますので、ご来園をお待ちしております。 ウポイ職員一同

## アイヌ古式舞踊を体感!

アイヌ古式舞踊の伝承活動を行う「白老民族芸能保存会」「帯広カムイトウウポポ保存会」「千歳アイヌ文化伝承保存会」の方々に

お招きし、伝統楽器ムックリの演奏や歌をはじめ、各地域で伝承されてきた特色ある古式舞踊の演目を披露いただきました。各回最後の

演目には、来場者やウポイスタッフも加わり、おおぜいの人々が輪になって歌い、踊り、笑顔があふれる楽しい時間を共有しました。



白老民族芸能保存会



帯広カムイトウウポポ保存会



千歳アイヌ文化伝承保存会

## アイヌ料理を体感!

アイヌ料理を通してアイヌ文化の多様性を感じていただくために、堀悦子さん（浦河町）、内山藤子さん（白糠町）、伊藤文子さん（白老町）をお招きしました。皆さまが伝承するオハウ（汁物）と軽食のシト（団子）などをふるまい、ウポイスタッフとともに食に関するお話をしました。

子どもから大人まで、たくさんの方から「おいしい」「ありがとう」とい

う言葉をいただき、伝承者の方だけではなく、ウポイスタッフも温かい気持ちになりました。地域のこと、

食文化のこと、そして文化伝承にかける思いを多くの方に届けることができました。



## 《ウポイ祭》への希望

「毎年この時期はウポイへ」とたくさんの方に思ってもらえるイベントにという思いで「ウポイ祭2023」を企画しました。いろいろな地域の方にご協力をいただきながら、来場の皆さまも、地域の方々も、ウポイスタッフもみんな一緒に楽しめる、そんなイベントをこれからも続けていきたいと思っております!



4年目も  
よろしく  
ポーン!

ウポイPRキャラクター  
トウレツポーン



当館職員が「日本科学教育学会第46回年会発表賞」を受賞しました。

発表者：奥山英登 おくやまひでと

発表論文：日本の科学教育における Indigenous knowledge とアイヌ文化  
 選定理由：本研究は、日本の科学教育研究において取り組まれていなかったアイヌ民族の土着知識に着目し、理論的・実践的に解明しようとする意欲的な研究である。今後、多様な科学教育研究の発展にむけて新しい視座を与える可能性が期待できる。

奥山英登 研究主査より皆さまへ

カナダやオーストラリアなど、諸外国では Indigenous knowledge「先住民族の知識」が科学教育に取り入れられています。日本の理科でも、アイヌ民族の生物や自然現象に関する知識を学ぶ機会が増えればいいなと思い、年会にて研究発表しました。引き続き、研究を進めていこうと思います。



発表スライドの一部

ウポポイ ウポポイ こんな とこ 10

夏は夜まで  
 ウポポイを  
 満喫しなさい！

7/1~8/31は20時まで開園しています！  
 豊かな緑に囲まれた公園を歩きながら  
 アイヌ文化を体験しましょう。  
 屋外で行われる壮大なプロジェクションマッピングショーを  
 一日の最後にお楽しみください。  
 清々しい風景以外にも、  
 この時期は霧に包まれたポロト湖など、  
 雨の多い白老ならではの幻想的な景色も必見です。



ウポポイに夏がやってきました！  
 グリーンシーズンの  
 新しい演目や体験、  
 この時期ならではの  
 プログラムをご紹介します。

夜が楽しいプログラム



屋外プロジェクションマッピングショー  
 「カムイ シンフォニア」

アイヌに伝わる創世神話をダイナミックなプロジェクションマッピングショーで上演します。映像、音、光り輝くオブジェや樹木が連動したユニークな演出をお楽しみいただけます。

※プログラムの詳細はウポポイウェブサイトへ。

注目の新プログラム



芸能体験  
 「ウポポ アキロ」

愛称「ウポポイ」とは「(おおぜいで) 歌うこと」。いろいろを囲んで伝統的な歌「ウポポ」をみんなで歌いましょう！



伝統芸能上演  
 「イメル」

歴史に埋もれた歌や踊りを再生する次代の担い手たちをイメル（稲光）が照らし出します。「シノツ」との見せ方の違いにご注目ください！



ウポポイ

散策謎解きゲーム  
 「アイヌの生きる道具箱(スウォップ)」  
 アイヌの道具を集めて使いこなし、次々に現れる難関を乗り越えろ！



■お問い合わせ

公益財団法人 アイヌ民族文化財団(ウポポイ内)

住 所：〒059-0902 北海道白老郡白老町若草町2丁目3番2号  
 電 話：0144-82-3914 FAX：0144-82-3685  
 メール：info@ainu-upopoy.jp

ウポポイにおける新型コロナウイルス感染拡大防止の取り組みや、プログラム等の詳しい情報はウポポイウェブサイトをご覧ください。

ウポポイ 検索

<https://ainu-upopoy.jp/>

